

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：教育費 項：特別支援教育費 目：特別支援教育振興費

事業名 スクールバス購入費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 特別支援教育課 環境整備係 電話番号：058-272-1111 (内 3585)

E-mail: 17783@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 66,498 千円 (前年度予算額：120,387 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	120,387	0	0	0	0	0	0	107,800	12,587
要求額	66,498	0	0	0	0	0	0	59,400	7,098
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

県立特別支援学校に通学する児童生徒の安全な通学手段の確保と適正な就学を推進するため、スクールバスを整備

(2) 事業内容

○整備車両 (更新4台)・整備校 (4校)

・中型バス 2台 関特別支援学校 (更新)
恵那特別支援学校 (更新)

・リフト付きマイクロバス
2台 岐阜希望が丘特別支援学校 (更新)
揖斐特別支援学校 (更新)

(3) 県負担の考え方

県立特別支援学校に通学する児童生徒の安全な通学手段の確保及び適正就学を目的とした整備のため、県負担

(4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
備品購入費	66,100	中型バス (@23,000×2台) リフト付きマイクロバス (@10,800×1台) ※車椅子4席 リフト付きマイクロバス (@9,300×2台) ※車椅子2席
役務費	188	リサイクル料金 (中型バス@53×2台) (リフト付きマイクロバス@27×2台) 自動車検査・登録手数料 (@7×4台)
役務費 (保険料)	52	自賠責保険料 (@13×4台)
公課費	158	自動車重量税 (中型バス@50×2台) (マイクロバス@29×2台)
合計	66,498	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・第3次教育ビジョン (2019.3)

(基本方針2 多様な学びを支援する教育体制の充実

目標7 特別支援教育の推進 取り組むべき主な施策)

⑥特別支援学校の児童生徒一人一人のニーズに応じた学習環境整備

特別支援学校児童生徒の通学に係る負担を軽減するため、スクールバス全コースにおいて乗車時間が概ね60分以内となるよう、スクールバスの増配置を計画します。

- ・子どもかがやきプラン (H21.3改訂)

(スクールバス整備 基本方針)

スクールバスの乗車を希望する児童生徒数の推移に合わせて、希望者が乗車できるよう整備する。

全路線でバスの乗車時間を片道概ね60分以内にする。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

「第3次教育ビジョン」の基本方針に基づき、スクールバスの乗車を希望する児童生徒数の推移に合わせて、希望者が乗車でき、全路線でバスの乗車時間を片道概ね60分以内に行えるようスクールバスを整備する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
				(前々年度末時点)		
乗車時間（片道） 概ね60分以内の 児童生徒数の割合	(H)	985 (H29)	990 (H30)	971 (R1)	100% (R3)	94.1%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

整備車両及び整備校

- 新規：大型 1台（大垣）
- 中型 1台（岐阜本巣）
- ワゴン 1台（恵那）
- 更新：大型 1台（大垣）
- 中型 1台（東濃）
- マイクロ 1台（長良）
- ワゴン 1台（郡上）

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

大型、中型、ワゴン計3台を新規整備、老朽化した大型、中型、マイクロ、ワゴン各1台、計4台を更新整備し、児童生徒の安全な通学手段を確保した。そのため、R2年4月時点で乗車時間（片道）概ね60分以内の児童生徒数の割合が100%になり、目標を達成した。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価) ○	県立特別支援学校に通学する児童生徒数の増加に伴い、スクールバス乗車希望者数が増加しており、今後も安全な通学と適正な就学を推進するためにも、事業の必要性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	乗車を希望する児童生徒数は毎年増加している。スクールバスを整備することによって、そのニーズに応えることができた。 老朽化したバスを更新することによって、児童生徒の安全な通学手段の確保ができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価) ○	各特別支援学校に通学する児童生徒数の推移に対応し、各校が必要とする台数を的確に把握して整備を進めた。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>県立特別支援学校に通学する児童生徒数は増加しており、それに伴いスクールバス乗車希望者数も増加している。今後も児童生徒数の推移に対応しながら効果的なスクールバスの整備を実施する。</p> <p>バスの故障が増え、修繕費が年々増加している。車両の管理体制を見直し、学校からの情報を生かして更新計画を立てていく。</p>

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>今後も県立特別支援学校に通学する児童生徒の安全確保と適正な就学を推進するために、スクールバスを整備する。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	